令和８年度成人用肺炎球菌ワクチン定期予防接種

～説明書～

成人用肺炎球菌ワクチンの予防接種を希望される方は、この説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解し、実施医療機関で接種してください。十分に納得できない場合には接種しないでください。

※　予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

※　接種を受けることの義務はなく、本人が接種を希望する場合に限り接種を行います。接種を希望しない人に、予防接種をすることはありません。

対象者

下関市に住民登録があり、今まで肺炎球菌ワクチンを接種したことがない次のいずれかに該当する方

- **６５歳の方（接種日時点で）**
- **６０～６４歳の方で、心臓、じん臓、又は呼吸器の機能に障害があり、日常生活が極度に制限される方、及びヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方（身体障害者手帳１級程度）**

※任意・定期接種に関わらず、肺炎球菌ワクチンの接種歴のある方は対象外です。
※定期接種としての接種は実施期間内に１回のみです。

１．肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌は、のどや鼻に入る細菌で、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎、肺炎を引き起こします。また、成人肺炎の２５～４０％を占めており、特に高齢者での重症化が問題になっています。

２．予防接種の効果

肺炎球菌には約９０種類の型があり、定期予防接種で使用される「沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン」は、そのうち成人でも病気を起こしやすい２０種類の型に対して免疫をつけることができます。全ての肺炎を予防するものではありません。接種してから免疫（抗体）ができるまで、およそ３週間かかります。１回の接種で、健康な人では少なくとも５年間は効果が持続すると言われています。効果には個人差があります。

３．肺炎球菌予防接種の副反応

接種後に、注射を受けた部位がはれたり、痛んだり、ときに軽い発熱が見られることがありますが、通常１～２日のうちに治ります。
筋肉痛、だるさ、違和感、寒気、頭痛、発熱が現れる場合もありますが、いずれも軽度で２～３日で消失します。

４．予防接種を受けることが適当でない方

（１）明らかに発熱がある方
（２）重い急性疾患にかかっている方
（３）予防接種の接種液の成分またはジフテリアトキソイドで、アナフィラキシーショックを起こしたことがある方
※　アナフィラキシーショックとは、通常接種後約３０分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応のことです。
（４）その他、予防接種を受けることが不適当な状態にあると医師が判断した方

５．予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

健康状態及び体質を勘案し、次のいずれかに該当すると認められる場合には、担当医師とご相談ください。

（１）心臓血管系の疾患、じん臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する方
（２）予防接種で接種後２日以内に発熱の見られた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こした方
（３）過去にけいれんを起こしたことがある方
（４）過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
（５）ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

６．予防接種を受けた後の注意

（１）予防接種を受けた後３０分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）と連絡を取れるようにしておきましょう。
（２）接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けてください。
（接種当日の入浴は差し支えありません。ただし、注射したところをこすらないでください。）
（３）接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
（４）接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、ただちに医師（医療機関）の診療をうけてください。

問い合わせ先：下関市保健部保健医療政策課　　０８３－２３１－２６６４